

令和4年度高齢者権利擁護・身体拘束廃止専門実践

研修意見まとめ

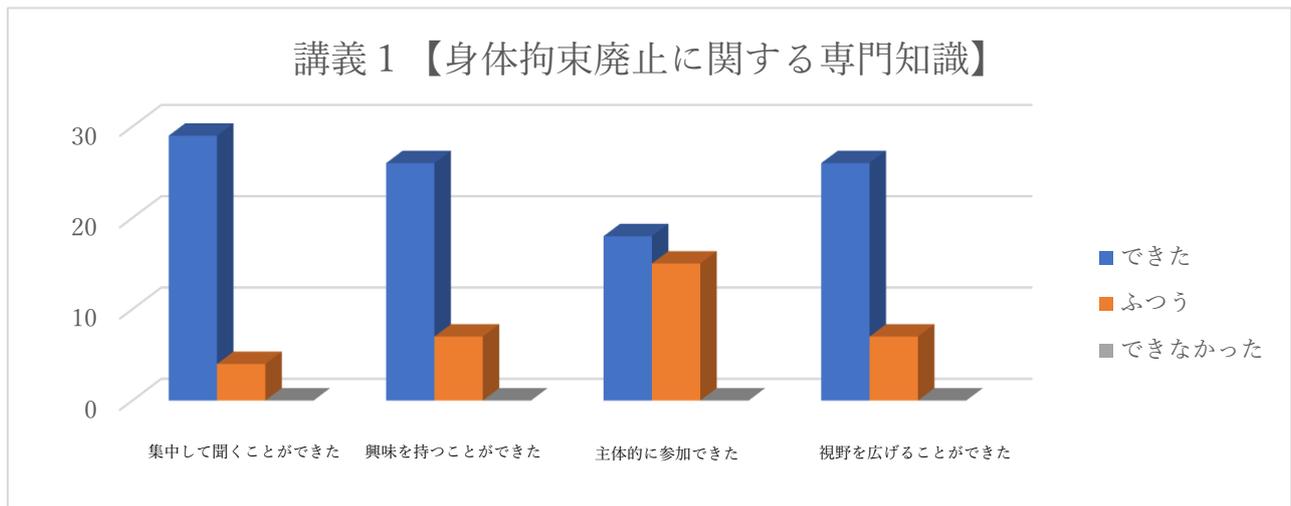
実施日 1日目 11月28日(月) 2日目 11月29日(火)

3日目 12月12日(月)

場所 千葉市美浜保健センター

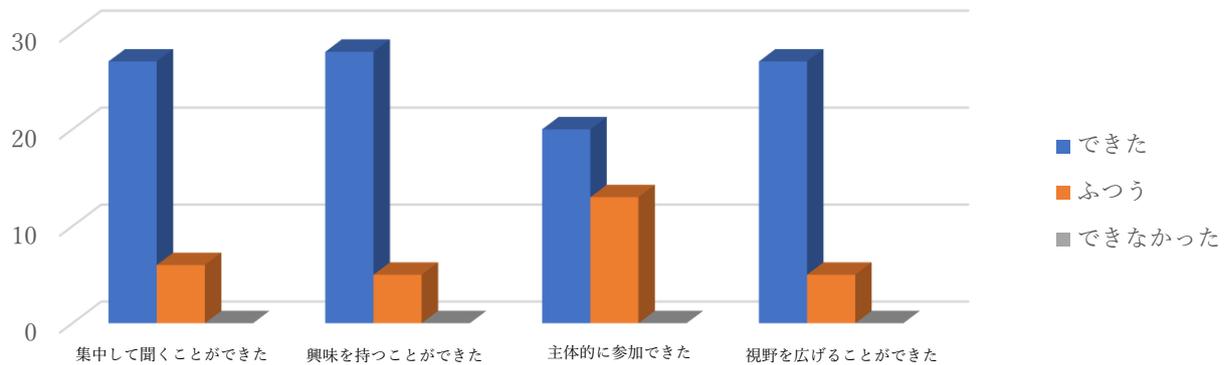
受講者数(修了証書発行者) 30名

1日目



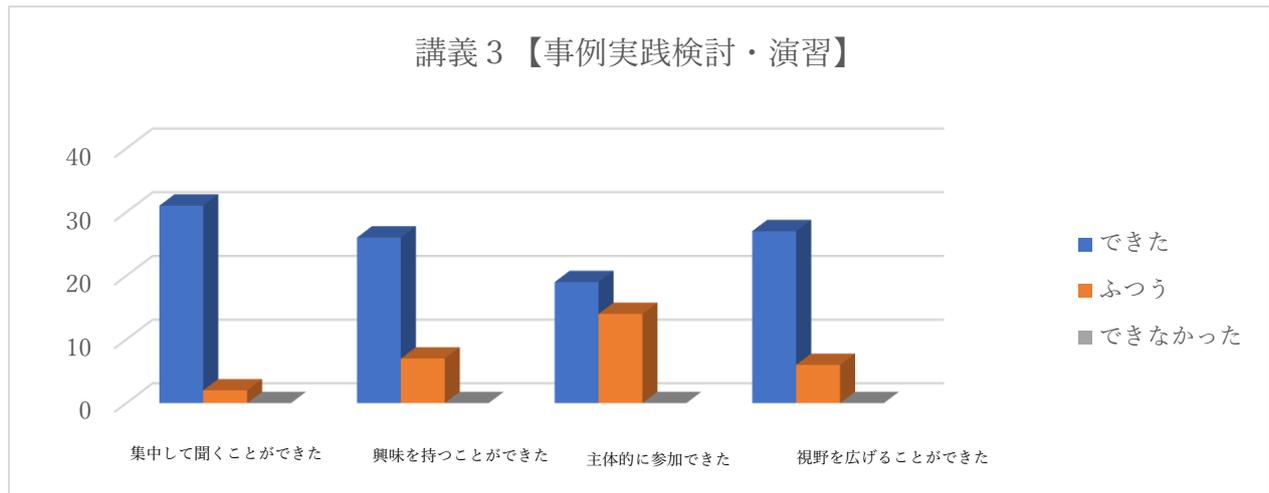
- ・身体拘束を廃止していく過程で課題に取り組む、質のケアの大切さを知った。
- ・施設に戻り重要事項説明書をチェックして今後に生かそうと思った。
- ・共通意識を持ち、適切なケアを行っていく事で改善に繋がると思った。
- ・身体拘束の廃止が目的ではなくその先の個人の尊厳を保持できるケアを目指す。
- ・不適切な声かけを注意し合う環境を施設で作っているが、適切な声かけを褒め合う環境を作っていきたい。
- ・問題行動を抑制するのではなく、その前の過程の原因を探していこうと思う。
- ・今関わっている利用者の「行動の原因」を探り直ちにできるケアについて考えられた
- ・言葉遣いの乱れ、整容への無関心が不適切なケアの入口としり今後注意していこうと思った。
- ・質の高いケアを実現する為に利用者、職員のストレスケアをしていきたい。
- ・日々の何気ないケアが身体拘束に繋がると改めて知ることができた。

講義2【チームアプローチとリーダーシップ】



- ・チームの大切さ、リーダーの難しさを実感した。自施設でのチームアプローチに生かしたい。
- ・リーダーの役割、重要性を学べた。今の職場よりも前の職場の方が働きやすかった理由が分かった。
- ・グループワークでは自分では思いもしない意見があり面白かった。
- ・リーダーの役割を文章化して整理することができた為、役割が明確になった。
- ・リーダーの質による組織への影響力を学べた。
- ・施設内での研修で取り扱っていき、ユニットリーダーや主任にも伝えたいと感じた。
- ・グループワークのおかげで、他施設の対応や考えを知れた。
- ・自施設での育成シートを活用し職員の教育に繋げていきたい。
- ・ユニットの方向性、目標が浸透できていないと思った。周知を徹底していきたい。
- ・自施設で、他職員のやりがいや想いについて聞いていきたい。
- ・各専門職で色々な意見がある為、きちんと話合うべきだと思った。
- ・アンガーマネジメントの大切さ、ストレスを発散させることを学んだ。
- ・今日だけで理解できる内容ではなかった。資料を今後も読んで理解を深めたい。
- ・自分の役割を果たし支援の質を高めていきたい。

講義3【事例実践検討・演習】



- ・事例を通して様々な意見が聞けた。視野が広がった。
- ・自分とは違う見方、意見を知れた。とても勉強になった。
- ・メンバーの意見、主張に折り合いをつけるのは難しいと感じた。職場で話し合う時に念頭に置いて個々を尊重していきたい。
- ・グループワークの際にそれぞれの意見をまとめることができて良かった。
- ・他施設でリーダーを行っている方の意見、考えをすることができた。
- ・立場により捉え方、視点が違い、それをどうまとめるかを学べた。
- ・色々な人の意見を聞く事で柔軟に考えることができた。
- ・チームワークの難しさがわかった。まとめていくためにもコミュニケーションを図っていこうと思った。

1日目まとめ

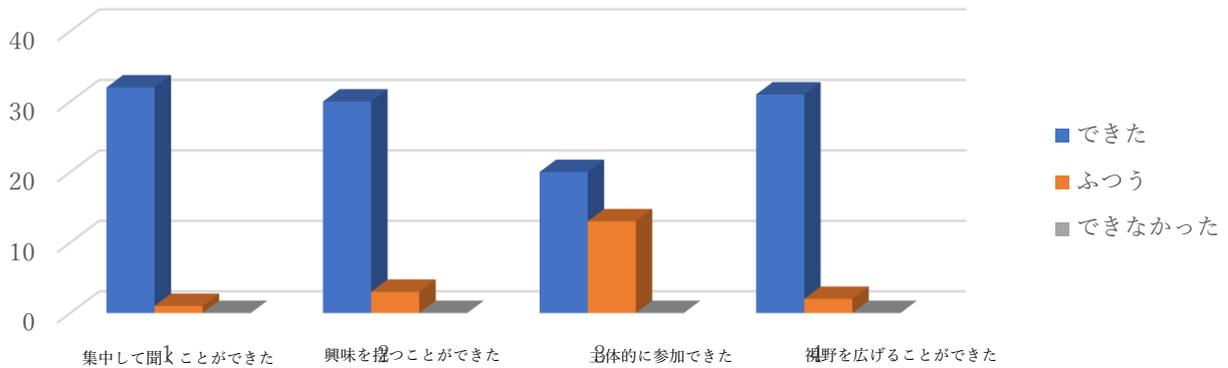
アンケートの回答を通して、身体拘束についての知識についてはある程度習得できており、自施設でのどのように取り組んでいるかを把握していると見受けられる受講者の意見もあった。

職場ではチームリーダー、指導者として働いている受講者も多く、リーダーとしての役割や他職員、他職種との関わりやとりまとめを今回の研修を通して学ぶことができた。活かしていきたいという意見が多かった。

グループワークにおいて、実施に対して否定的な意見はなく自分と同じ立場、年数の近い職員の考えや他施設での取り組みを聞いてよかった。今後の参考になるという意見が多かった。

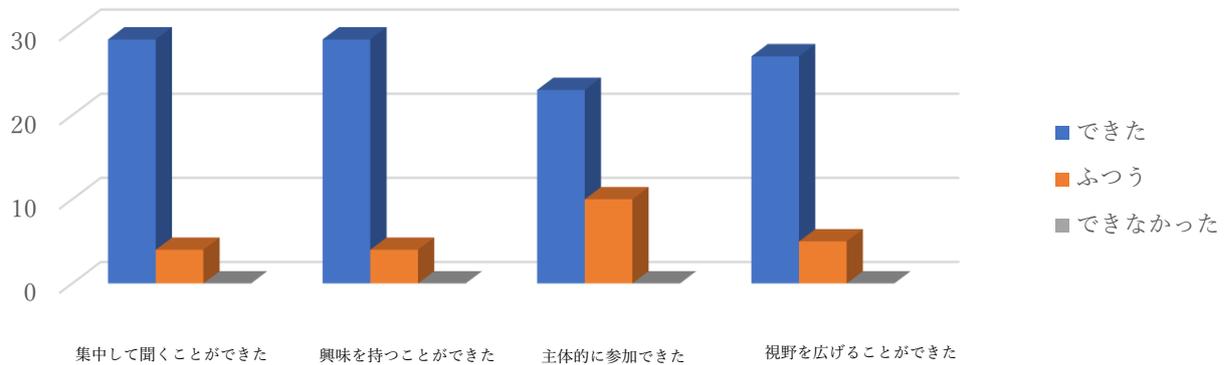
2日目

講義4【記録と情報の共有】



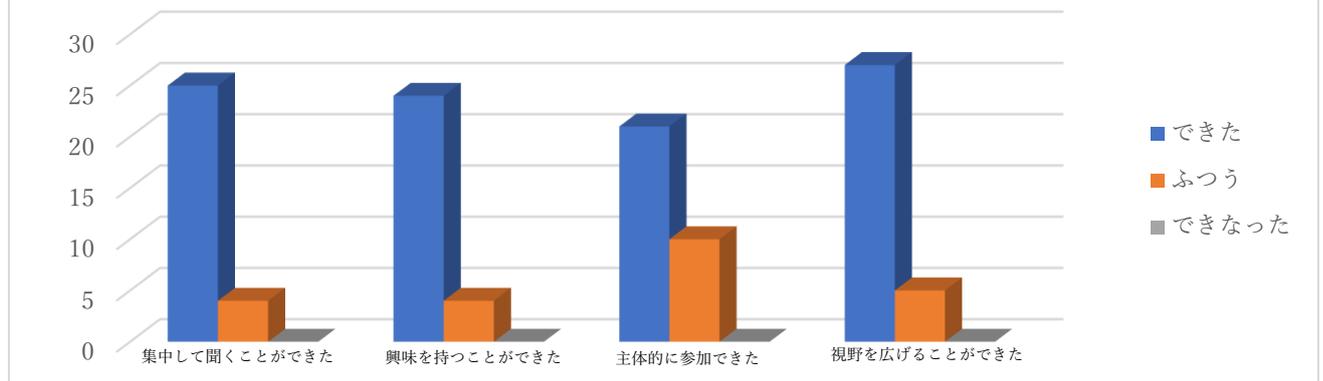
- ・介護の統一性、連続性が大切だと感じた。
- ・記録の書き方についての見直しをしていきたい。
- ・苦手としていた為、とても参考になった。
- ・些細な事でも記録する大切さを学んだ。
- ・読み手の目線に立つことが大切だと感じた。
- ・日々の業務の中で記録がおざなりになっている所があると感じた。
- ・具体的にどのように記載すべきかを学べた。
- ・専門学校で厳しく習った項目だったので、今でも活用できていることを実感した。
- ・自分を守る為にも第三者にも伝えやすくするためにもわかりやすく記録していく。
- ・ケアプランに沿った経過記録をとれていないように感じた。意識付けをしていきたい。
- ・行っていた記録方法が誤っていると気づけた。
- ・ただ記録をとるだけでなく、そこからアセスメントに繋げていこうと思った。

講義5 【身体拘束廃止に向けた専門的理解と実践事例】



- ・症例を通して考える事で日々のケアについて考えることができた。
- ・施設全体で身体拘束を含めた不適切なケアをなくすため、取り組める体制を整えていきたい。
- ・自施設での不適切なケアについて考えることができた。
- ・職員個々の問題ではなく、部署、施設単位で取り組み解決していかなければならないとわかった。職員間の情報共有を綿密に行っていった。
- ・事例がわかりやすかった。グループワークでは違い対応策が聞けて勉強になった。
- ・実践事例を知る事で今後のケアに活かせる部分があると思った。
- ・自分の施設では検討や改善に向けての取り組みが少ないと気づけた。
- ・施設内での委員会に属して間もない為、事例を通して知識を得る事ができた。
- ・部署内、事業所内での連携、意思統一の重要性、現在の職場環境で行うにはどうすればいいか考えた。
- ・説明がとても分かりやすかった。
- ・施設に戻ったら学んだチェックリストを活用する。
- ・講師の方に質問する時間が欲しかった。色々聞いてみたいことがあった。
- ・会議、カンファレンスを通して細かく話し合い、他職員にも周知していけるよう に取り組んでいく。

講義6【リスクマネジメント】



- ・リスク管理の介護になってしまっていた。共感型の支援に繋げていけるようにチームとして取り組んでいきたい。
- ・わかりやすい講義でとても勉強になった。
- ・安全、安心を守る事は手段ではあるが目的ではないと知れた。
- ・役割、生きがいを持って生活してもらう事の大切さを学んだ。
- ・自分が利用者だったらと一緒に考えられる様にしていきたい。
- ・情報の共有が重要だと思った。
- ・「老いる」という点がとても考えさせられる話だった。
- ・リスク管理に焦点を当てすぎてしまい、行動制限になるようなヒヤリハットの対策を上げていた。プラスの視点で考える捉え方がなかったので、勉強になった。
- ・グリーンケアについてより深く学びたいと思った。
- ・介護について、自分自身の考えを再確認出来た。先生の話しも暖かくてこういう人になりたいと思った。
- ・利用者の行動をリスクとしか考えていない職員が多い為、強みである事を理解してもらえるようにしたい。
- ・チームケアの大切さ、事業所の目的を考えていこうと思った。
- ・リスクマネジメントについて自施設で再考したい。
- ・「ひやりはっと」ではなく、「にやりほっと」になるように支援していきたい。

2日目まとめ

記録の作成、入力について、年数が経過し慣れてしまっている部分もある為、再認識できた。自身の方法を見直したいという意見が多く、他職員にも伝えていきたいという意見も聞かれた。

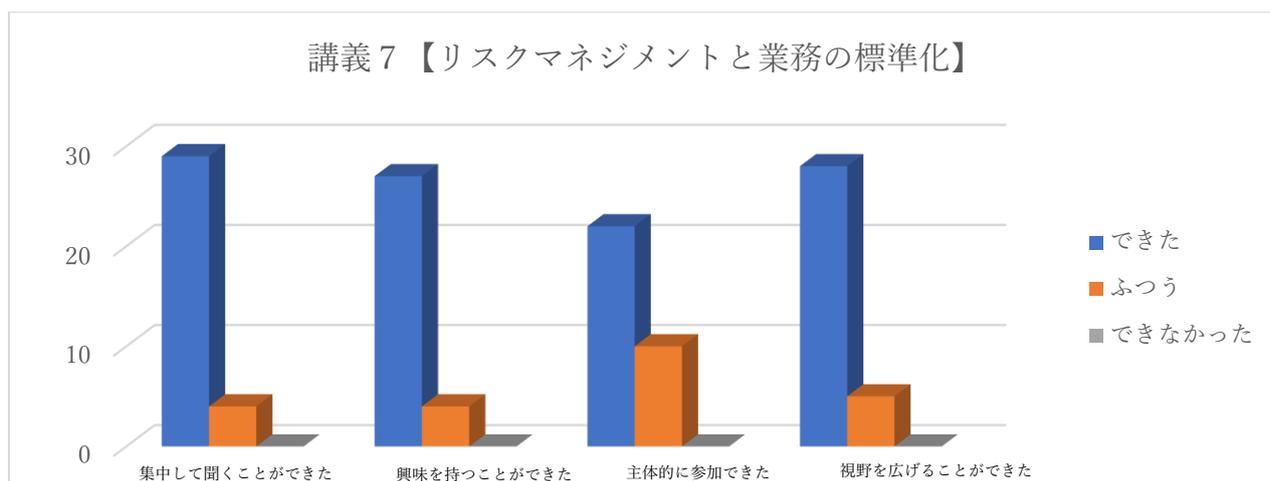
今回の研修で具体的な事例を初めて知る事ができたという意見があった。身体拘束を行っていない施設の職員にとっては今回のような外部研修で具体的な事例と対策案を協議する事が各施設での拘束廃止、行わない取り組みを行う事に対して重要だと感じた。

既に施設内での身体拘束委員会に属している受講者の意見もあり部署、事業所で考えていきたい、共

有していきたいという意見もあがっていた。

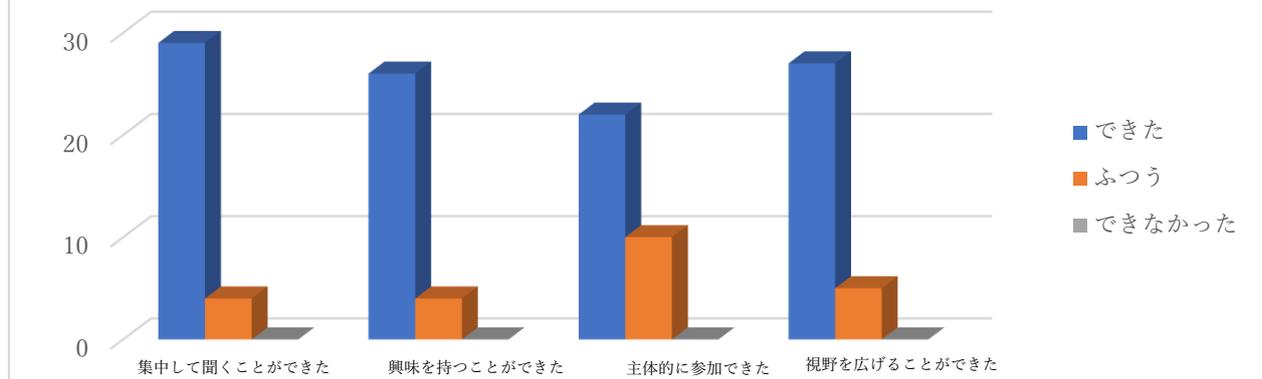
グループワークだけでなく講師との質疑応答の時間が欲しかったという意見があった。時間が決まっている為、毎回の講義では難しいと思われるが、最後の5分程度でも受講者から質問できる時間を設けられるように各講師に依頼するか検討が必要。

3日目



- ・目的やプロセスを提示し理解してもらう事が大事であると再認識できた。
- ・事故を無くすことが目的ではなく、不適切ケアは日常的に見直していくことが大切だと思った。
- ・記録についての大切さを改めて感じた。新人育成にも活用していきたい。
- ・講師の話がとてもわかりやすく勉強になった。
- ・安全管理について視野を広げる事ができた。
- ・入居者だけでなく、職員に対してのリスクマネジメントも必要だと思った。
- ・自分も含めて記録に割ける時間が少ないと感じた。記録の重要性について施設に持ち帰り協議していきたい。
- ・入居者だけでなく、組織や職員にも目を向けて関わっていくことが大切だと感じた。
- ・施設全体でより良いサービスの提供に向けて何ができるのか協議して実践していきたい。
- ・職員の変化については、あまり意識していなかった。
- ・個人間では仕事への考えや不安を話合っているが、施設として職員のストレスや虐待についてのマネジメントが不足していると思った。施設としての取り組みや方向性を取り決めていこうと思った。

講義8 【リスクマネジメントと業務の標準化演習】



- ・自分の考えを押し付けないように気を付けようと思った。
- ・グループ演習で色々な意見を聞いた。
- ・講義時間内だけではRCA分析について理解できなかった。資料を再度読み出来るようになりたい。
- ・RCA分析について、最初はわからなかったが、グループワークで他の意見を聞く事により理解を深められた。
- ・自分の視野を広げて事例に向き合うことができた。
- ・1日目、2日目とは違う人とグループワークができてその時とはまた違う視点や意見が聞けてよかった。
- ・起きた事象に対してここまで碎いて考えたことがなかった。活用できれば、対応策や原因究明などの検討ができると思った。
- ・自施設の他職員も参加して欲しいと思った。
- ・「なぜ」と突き詰めることが大切だと思った。
- ・意見交換、他の方の意見が聞けてよかった。
- ・起こった事に対して色々な要因が考えられる様に常日頃から考えていきたい。

3日目まとめ

リスクマネジメントは入居者、利用者だけに向けられるものと思っていた受講者が多く、他職員や自身にも目を向けていき、身体拘束廃止だけでなく離職防止やストレスケアに繋げていきたいという意見、感想が多かった。

個人としてだけでなく、部署や事業所として取り組んでいきたいという意見が聞かれた。

RCA分析について、施設でも取り組みたい、とても参考になったという意見が多かったが、講義内だけでは内容が把握できなかったという意見も数名いた。

その他意見（3日間を通して）

今年度の研修からアンケートに各講義の感想を記入して頂く形式となったが、未記入の受講者も数名いたが、ほとんどは各講義に対して細かく意見、感想を述べていた。

また、各講義の感想を書いてもらう事でまとめやすいと感じた。

会場内の感染対策の不備や委員の対応に対する不満を上げる受講生はいなかった。

講義内容や講師の進行についても、不満やマイナスな意見はなく、丁寧で分かりやすく教えてくれたという意見が多かった。

グループワークについては、もっと時間を割いて欲しかったという意見が多く聞かれた。

リーダーの立場として受講している職員が多いと思われ、自身での再認識よりも事業所内での共有や指導に活かしたいという意見が多く聞かれた。

【報告者】

特定非営利活動法人 千葉市老人福祉施設協議会
事業推進委員会受託事業部会
高齢者権利擁護・身体拘束廃止委員会